

メディカルスタッフシンポジウム

令和2年11月19日(木)

各種甲状腺疾患患者における年齢分布の検討
—橋本病は加齢と共に増加するか否か、亜急性甲状腺炎は単純な
感染症か否か—

高松内科クリニック

板垣 あゆみ, 高松 順太, 村上 康弘, 酒井 聡至, 忌部 歩,
川崎 善子, 萩原 英恵, 吉岡 和佳, 松塚 文夫, 岩谷 良則

COI 開示

発表者名： ◎板垣 あゆみ, 高松 順太, 村上 康弘, 酒井 聡至,
忌部 歩, 川崎 善子, 萩原 英恵, 吉岡 和佳, 松塚
文夫, 岩谷 良則(◎代表者)

演題発表内容に関連し、発表者らに開示すべき
COI 関係にある企業等はありません。

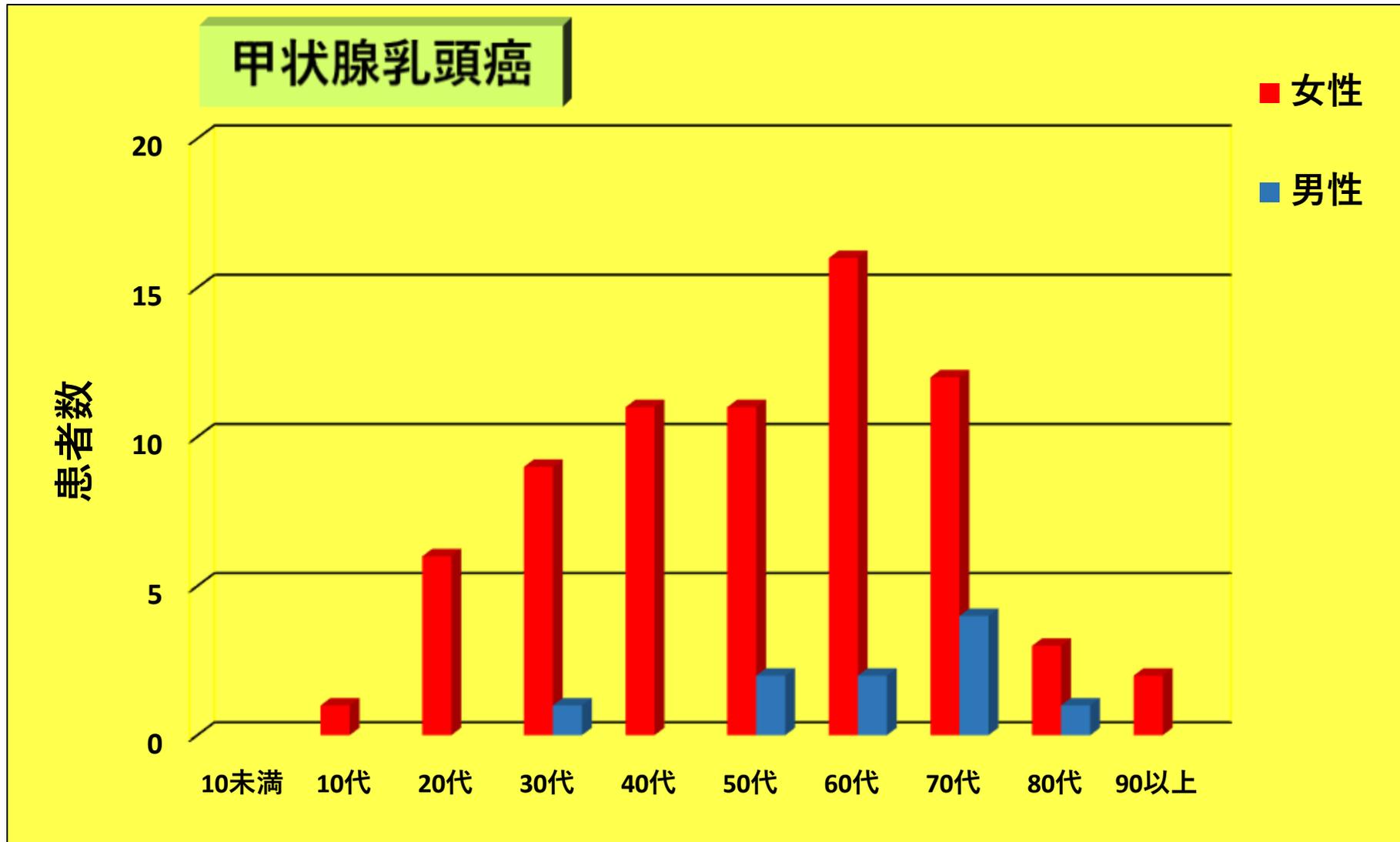
背景

1. 甲状腺機能低下症は加齢とともに増加する。それならば低下症の大部分を占めるとされている橋本病も、加齢に従い発症が増加しているとも推測される。
2. 亜急性甲状腺炎はイタリアでCOVID-19感染後に発症した患者が報告されるなど、ウイルスが原因の炎症疾患とされている。
3. しかしいずれの疾患も好発年齢に関しては不明な点が多い。

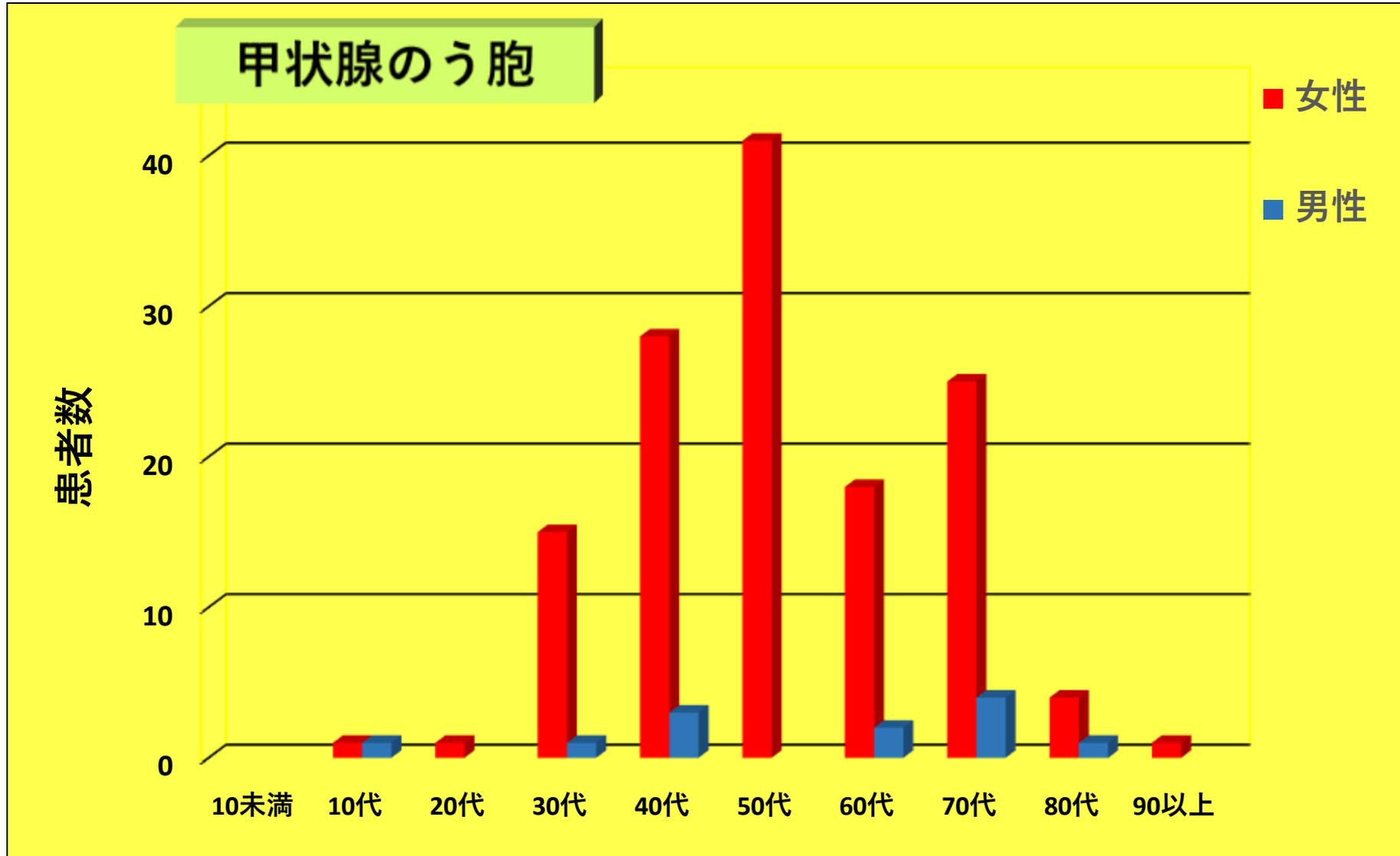
対象患者

疾患名	患者数	年度
甲状腺乳頭癌	91	2015～2019
甲状腺のう胞 (長径20mm以上)	146	2015～2019
過機能性結節 (プランマー病)	31	2015～2019
バセドウ病	219	2020(1月分)
橋本病	314	2020(5月分)
亜急性甲状腺炎	72	2010～2019

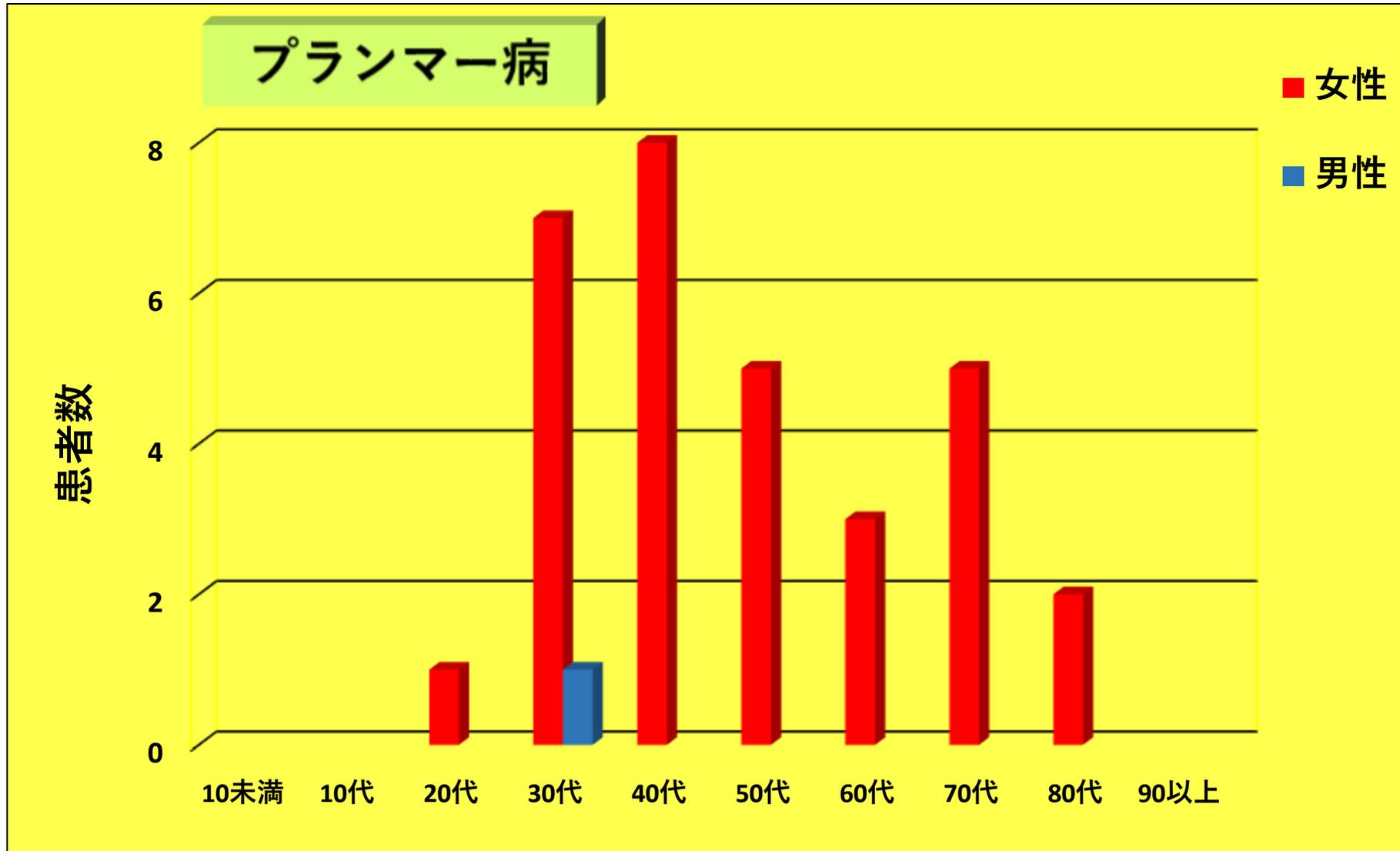
結果



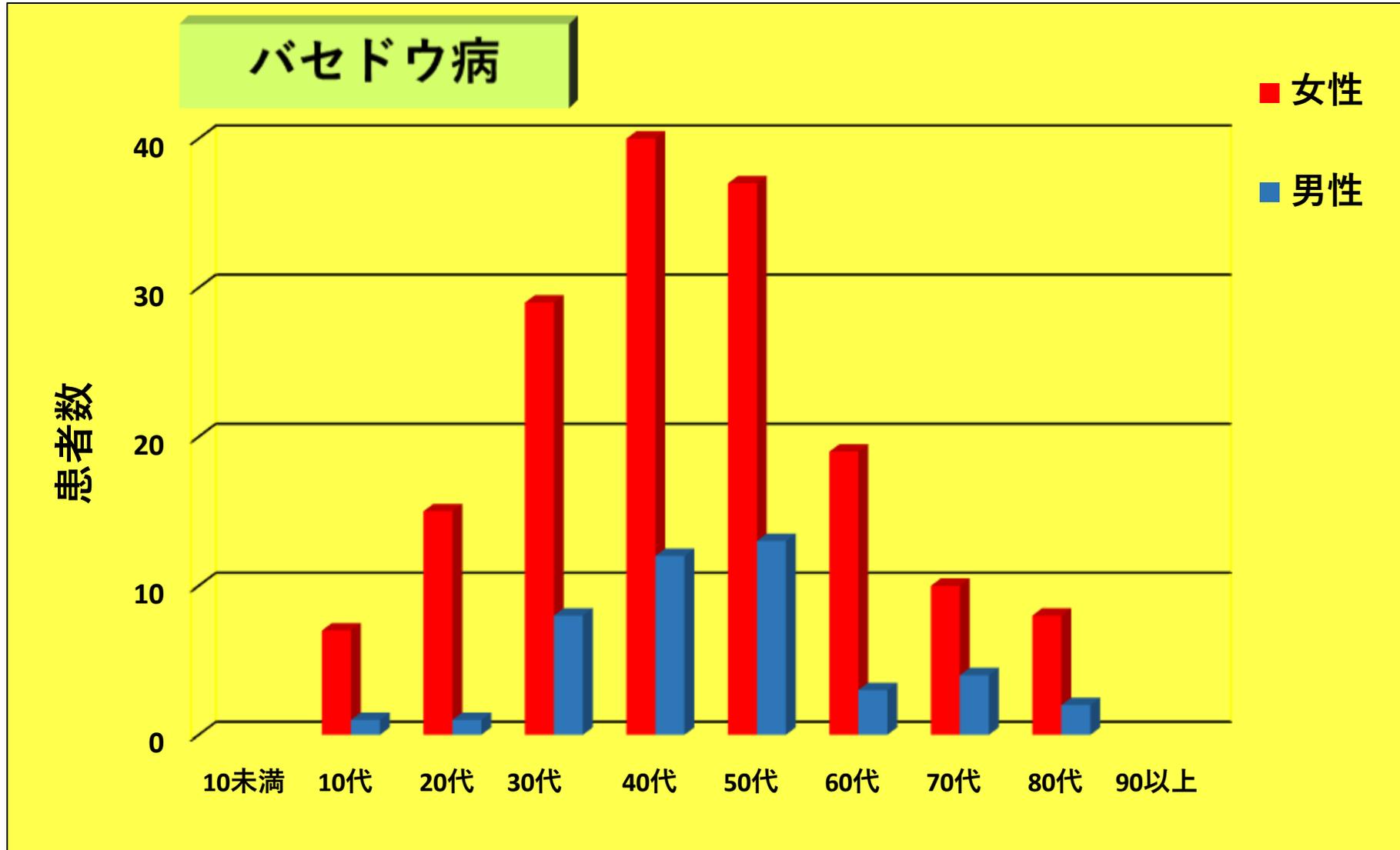
結果



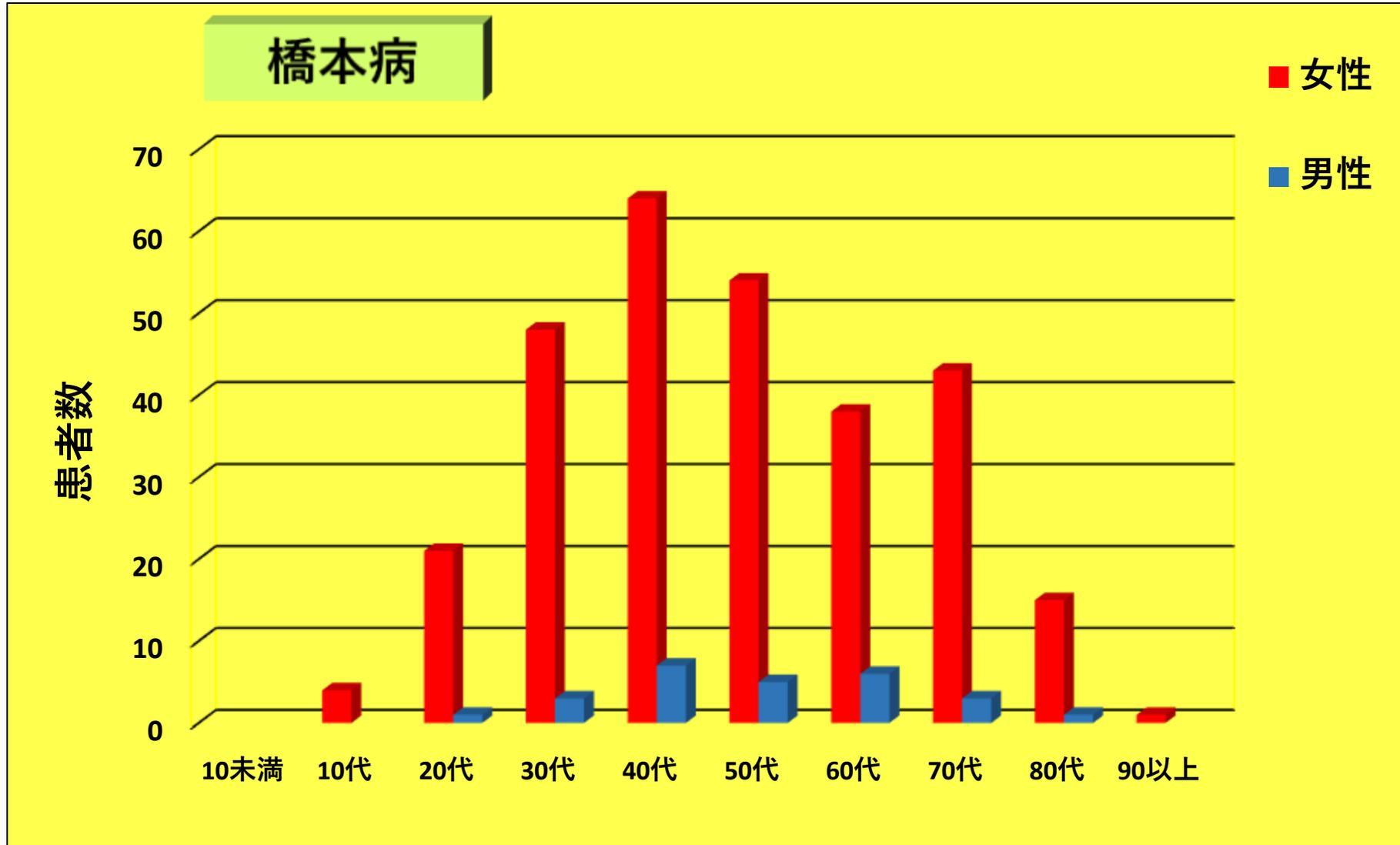
結果



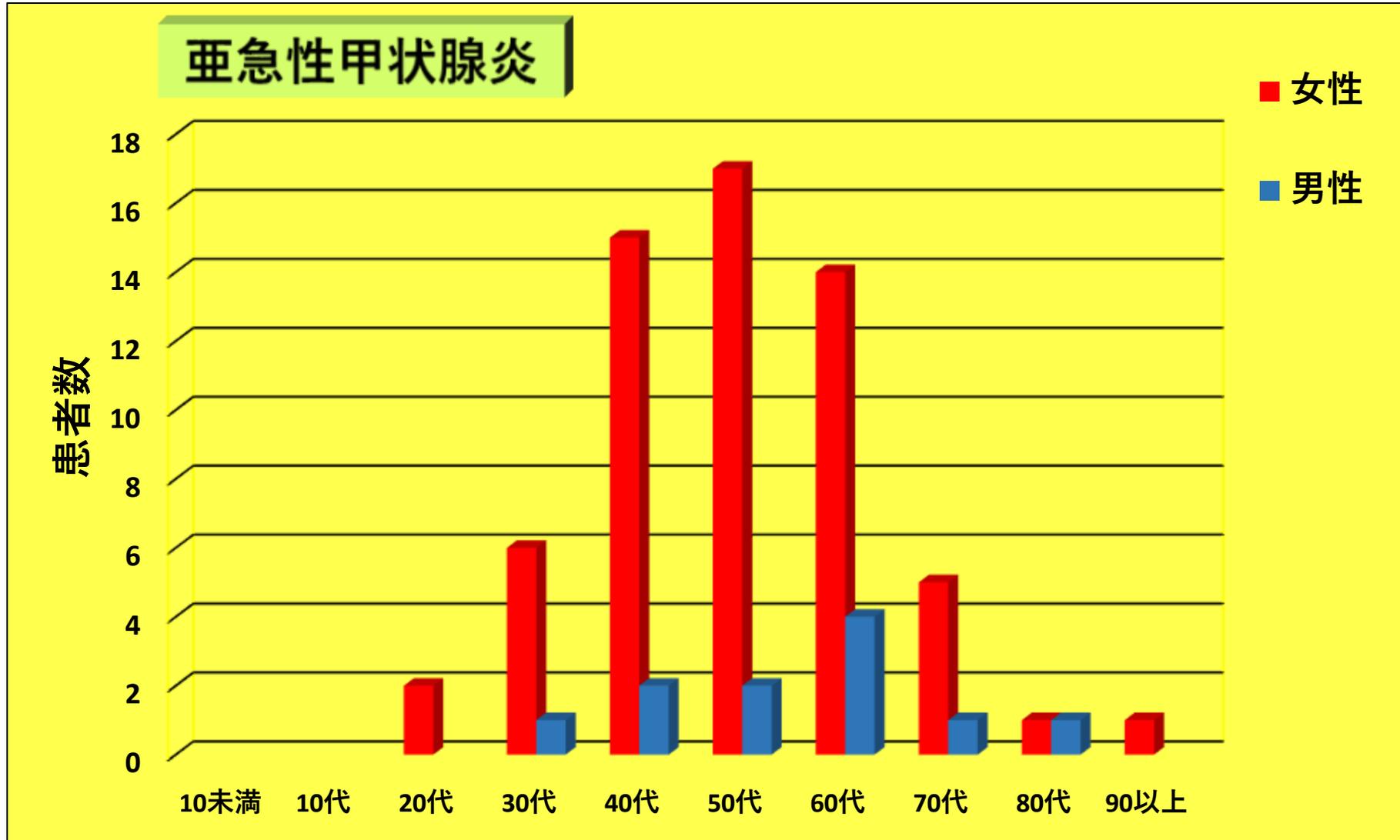
結果



結果



結果



結果のまとめ

1. 甲状腺乳頭癌は加齢に従い患者数が右肩上がりで増加し最多は60歳台であった。
2. 甲状腺のう胞は30歳台から70歳台までの各年齢層でほぼ同数であった。
3. プランマー病は30～40歳台の比較的若い年齢で最多を示した。
4. 自己免疫性疾患のバセドウ病は40歳台が最多の単峰性分布をとった。
5. 橋本病もバセドウ病と同様に最多が40歳台でその後は減少することが示された。
6. 炎症疾患である亜急性甲状腺炎は50歳台が最多の単峰性分布をとり20歳未満は無かった。
7. 性差については全疾患で女性優位であった。

結論

1. 腫瘍性疾患では乳頭癌は加齢で増加するが、のう胞とプランマー病は加齢に影響されない。
2. 自己免疫異常のバセドウ病は壮年期に発症のピークがある。橋本病も同様の年齢分布で加齢に伴う増加はないと推測する。
3. 小児とティーンで極めて少ない亜急性甲状腺炎の原因は単なるウイルス感染症ではなく、個人の免疫状態など他の因子が関与して発症することが示唆される。